



花尾神社大祭 花尾太鼓踊り



ふくれ菓子・いこ餅・がねん天ぷら  
昔懐かしい田舎のもてなし 郡山



広大院茂姫・御台所図  
(島津重豪の娘)  
シーボルトが持ち帰った絵  
鹿児島大学附属図書館所蔵

鹿児島は面白い  
鹿児島は楽しい  
鹿児島は美味しい  
鹿児島は温かい  
そして  
鹿児島は不思議の国

# ひつしづ

## 第十一号

ご挨拶

一年が過ぎるのは早いもので、十二月もあとわずかです。皆様、この一年の歩みは如何でしたか。

今年は特に世界的な異常気象に見舞われ、国連のグテーレス事務総長は「今や世界は地球沸騰化の時代だ」と警告を發しました。

宇宙から初めて地球を見たガガーリンは「地球は青かった」と言いましたが、美しく青く緑豊かな地球を次の世代に手渡せるよう、賢い選択をしていきます。

本年もお世話になりました。来年も笑顔でお会いできますよう、健康にお過ごし下さいませ。皆様どうぞよいお年をお迎え下さい。

NPO法人かごしま新発見伝塾  
理事長 今井 俊子

発行者  
NPO法人  
かごしま新発見伝塾  
〒890-0023  
鹿児島市永吉 3-19-17  
ザ・ビューヒルズ 208  
Tel 099-800-1521  
Mail [info@kagoshima-shinhakken.net](mailto:info@kagoshima-shinhakken.net)  
<http://www.kagoshima-shinhakken.net>



鹿児島検定グランドマスター1期生として理事長がMBC ポニーメイツのインタビューを受けました



樹 発 立 起  
龍 建 経 絶  
辰 達 発 断

日新公ゆかりの海蔵院跡(伊作)にて



会員宮元篤司さんの個展(市役所ロビーにて)大島紬で絵を製作

「原口泉教授の野外歴史教室」

島津氏のお国入りと出水のみかん狩り

十一月二十六日、山里は秋の紅葉真盛りで、更に小春日和に恵まれました。原口先生の流れるようなご案内の中、入来峠を越えて、宮之城から紫尾峠を下り出水に入りました。

(一) 真鍋香果園

出水は美味しいみかんの産地です。赤土の扇状地は八代海に面し、海風と太陽がみかんのおいしさを育みます。現在三代目の若手経営者航之介さんが目指すみかんは「子どもが食べたくなるみかん」です。航之介さんは独自に配合し、発酵させた有機肥料をたっぷり使った土作りを一番大事に考えています。みかんは小玉を中心に栽培し、果皮が黄色く着色した後、糖度を上げるため、長期間樹に生らせます。すると果肉は濃い橙色に変わり、旨味の中に少し酸味が味わえます。

真鍋香果園は鹿児島県認証K-GAP特別栽培農産物認証農家の指定を受けています。

召し上がった方々が「甘〜〜」。とてもおいしい。こんなみかん初めて食べた」と絶賛されました。



(二) 木牟礼城跡

国道3号線を米ノ津方面から高尾野に向かう途中、上空を4羽のツルが飛んでいました。何故ツルは出水に飛来するのでしょうか。あつー、ここでは木牟礼城をご紹介するのでした。

島津初代忠久は源頼朝により、薩摩・大隅・日向の三ヶ国の地頭職に任ぜられ、守護代として本田氏を下向させて、山門院(出水市江内)木牟礼に山城を築き、島津氏支配の足がかりとしました。文永十一年(1182)や弘安四年(1223)モンゴル帝国の襲来を受け、筑前宮崎を守った島津三代久経と嫡男忠宗ですが、弘安七年(1226)久経が宮崎で没すると、忠宗はそのまま薩摩に下向し、領国経営を目指しました。



忠宗には多くの男子がおり、長男の貞久を後継者とし、二男以下の忠氏は和泉、忠光は佐多、時久は新納、資久は樺山、資忠は北郷、久泰は石坂を夫々与え、領国拡大を諮りました。そして少しずつ鹿児島に近づいて行き、五代貞久は川内の碓山城を手にいれ、南北朝時代には足利尊氏方に加わり奮戦することになります。

(三) 野田感応寺

創建は建久五年(1254)で、島津初代忠久の命により、本田貞親が宋西禅師を開山として建立した禅宗のお寺です。(正式名称は鎮國山感応禅寺)

島津氏の菩提寺として広大な敷地を有しましたが、明治二年の廃仏毀釈により廃寺となりますが、明治十三年(1880)再興されました。



往時の面影をとどめていないのは残念ですが、正門の二体の仁王像は迫力があります。



境内には「五廟社」と呼ばれる墓地があり、島津初代忠久、二代忠時、三代久経、四代忠宗、五代貞久が祀られており、島津氏の由緒を知ることが出来ます。



鹿児島県指定文化財、十一面千手観音像は文安二年(1444)院派の仏師院隆の作です。院派とは仏師定朝の孫院助からはじまる仏師集団で、平安時代後半から室町時代にかけて活躍しました。(ウィキペディアより)

又、同じく県指定文化財、絹本著色雲山和尚像は四月八日のみの公開となっております。是非足をお運び下さい。

### 出水平野

出水は紫尾山(1067m)を背にしたなだらかな扇状地が続き、麓に沖積平野が広がっています。紫尾山から流れる平良川が大川内方面から流れる広瀬川と交わり、下流は米ノ津川と呼ばれます。そして八代海へと続く所は浅瀬になっており、元禄時代に干拓地が作られました。



出来上がったのが現在の荒崎干拓地です。来年、令和六年二月二四日(土)NPO法人かごしま新発見伝塾では「鶴の北帰行と蘇った薩武家屋敷群」と題してバスツアーを催行致します。何故ツルは出水を目指すのか。出水の人たちはどのようにしてツルを保護してきたのか。ツルと人とのかわりなつづきお届けします。是非ご参加ください。

### 野間の関

関ヶ原の戦いで家康の陣を正面突破した義弘軍は伊勢路から大阪に見事に辿り着き、帰還を果たしました。そして家康は加藤清正に肥後を守らせ、薩摩と対峙させました。

薩摩では「ひとつとせ、肥後の加藤が来るならば煙硝さかなに団子会釈(だごえさく)」と唄って、何時でも来い!と意気盛んなところを家康に見せつけました。

野間の関は屈強な出水兵児が、藩内に入り込もうとする怪しげな人たちを取り締まる為に設けた関所ですが、高山彦九郎、平野国臣、月照、坂本龍馬なども厳しく吟味されたという逸話が残っています。現代からみると、えっ?こんな人まであやしかったの?と思いますが、怪しげな人はやっぱり怪しかったのです。



近くに有馬雄助首実検の地があります。有村三兄弟の次男です。三男治左衛門と共に桜田門外の変の謀議に関わったとして切腹しましたが、幕府の要請でこの地で首実検をしたと伝わります。

### この半年の事業実績

#### 歴史よもやま話

- 06/22 島津義久生誕490年 前編
- 07/27 島津義久生誕490年 後編
- 11/30 霧島六社権現
- 12/07 大江戸の姫さま 島津重豪外聞



ミチ姫(猫)を抱く天璋院 本当は狆が好みだった 早稲田大学図書館所蔵

#### 街歩き

- 09/21 西郷さんを偲んで城山へ
- 10/19 玉里島津邸と鹿児島工業高校
- 11/23 梅ヶ淵観音と不動堂
- 12/02 桐野利秋と西南戦争の若者たち

#### \*ちよつと閑話



恋に溺れるのが18歳、風呂で溺れるのが81歳  
 道路を暴走するのが18歳、逆走するのが81歳  
 心がもろいのが18歳、骨がもろいのが81歳  
 偏差値が気になる18歳、血圧が気になる81歳  
 まだ何も知らない18歳、もう何も覚えていない81歳  
 自分探しをしている18歳、皆が自分を探している81歳  
 若いも若きも力を合わせ今日もせっぺ! きばいもんぞな~

※感懐

今井俊子

命にこころをこめよう

人間の命には限りがある。昔、神はアダムとイブを完璧な人として誕生させたが、イブが禁断の果実を食べたことから命に限りがあるようになったという。

天寿をまっとうした人もいれば生まれてすぐ亡くなる赤ちゃんもいる。人間は皆平等というが、自分の命をコントロール出来ない私たちはどのような状態を平等というのだろうか。自分の意志に反して亡くなった人を私たちはどのような形で受け継いでいけばよいのだろうか。

九月二十四日息子が亡くなった。小学校の教員として子どもたちの教育に精魂を傾けていた。

「郷中教育やいろは歌、それに出水兵児修養院などを取り入れた授業を受けました。今でも私の生きる道になっています。」と、かつての教え子たちから聞かされた。彼の家の書棚には西郷隆盛に関する本や島津日新公のいろは歌の本が並べられていた。彼はまさしく薩摩を愛した人間なのだ。

西郷さんの命日と同じ日に亡くなったことに感懐を憶えずにはいられない。

今は息子のやり残したことを、私共の活動を通して継続していき、NPO法人としての役割を全うしたい、と考えている。

## 2024年度の事業カレンダー

12/25(月)現在の予定表です。変更になる場合がありますのでご了承ください

カテゴリー	回	月	日	曜	カテゴリー	テーマ
歴史よもやま話	10:00~11:40	会場	市福祉プラザ 4F 小会議室	資料代 200 円	要予約	27 名限定
	前	1	25	木	歴史よもやま話	聡徳院~~島津登志子さん講座~~
	前	2	22	木	歴史よもやま話	西南戦争で散った若者たち
	前	3	28	木	歴史よもやま話	西郷の妻・スガ、愛可那、イト
	1	4	25	木	歴史よもやま話	敬天愛人はどうして生まれたか
	2	5	30	木	歴史よもやま話	薩摩の豪商たち
	3	6	27	木	歴史よもやま話	大山巖 前編
	4	7	25	木	歴史よもやま話	大山巖 後編
	5	8	29	木	歴史よもやま話	神代三代とその妃たち
	6	9	26	木	歴史よもやま話	大隅古墳群の謎
	7	10	31	木	歴史よもやま話	入来文書と朝河貫一について
	8	11	28	木	歴史よもやま話	専修大学の創始者田尻稻次郎
	9	12	12	木	歴史よもやま話	丹後局と比企一族
街歩き	10:00~12:30	会費 1,000 円(資料代、保険代含む)	2 日前までに要予約	15 名限定		
	前	3	14	木	第 81 回街歩き	アリーナから小松帯刀別邸跡まで
	1	4	18	木	第 82 回街歩き	古地図を片手に鶴丸城周辺
	2	5	25	土	第 83 回街歩き	下加治屋町郷中
	3	9	19	木	第 84 回街歩き	西郷さんを偲んで城山下り
	4	10	17	木	第 85 回街歩き	斉彬の初めてのお国入り...水上坂と常盤界限
	5	12	2	月	第 86 回街歩き	桐野利秋、島津啓次郎、増田宗太郎
バスツアー	前	2	24	土	出水	鶴の北帰行と蘇った麓武家屋敷群
	前	3	23	土	義弘シリーズ	家族愛を育み薩摩を守ったえびのの26年間
	1	10	20	日	大隅	四十九所神社・若武者の鐮流馬祭り
	2	11	23	土	六社権現	秋分の日、紅葉めぐりと霧島東神社と狭野神社

編集後記 手元に届くのは新年を迎えていると思いますが、遅くなりましたこと、相変わらずの紙面作りも併せてお詫び申し上げます。来年こそは！と毎年いっております。皆様にとって良い年でありますように。

編集責任者 今井征男